

専修大学社会科学研究所月報

〔西田 勲先生に聞く〕

——昭和社會運動史の一断面——

まえがき

社会科学研究所では、本学に長く御在職され、定年でお辞めになった所員の方々のオーラル・ヒストリー収集をその事業計画の一環としてすすめてきているが、以下は、昨84年3月をもって御退職された西田勲先生（元経済学部教授。現名誉教授。所外研究員）から伺ったお話である。

西田先生は1913年に岡山市に生まれ、六高、京都帝国大学を経て、1949年に本学に着任された。御専門は国際経済論であり、とくにアメリカ経済について広範囲にわたるお仕事を残されているほか、マルクス主義に関する古典的著作の邦訳、紹介でも重要な役割を果たされてきた（詳しい御経歴と業績については『専修経済学論集』第18巻第2号を参照されたい。本号では省略させて頂いた）。以下の聞き書きでは、これらのお仕事とならんで、むしろその御研究歴の底にある先生御自身のパーソナル・ヒストリーに焦点をしばらせて頂くことにした。それは主として、京大時代に先生もその一翼を担われた反戦文化運動——『学生評論』の刊行その他——であった。人民戦線の性格を色こくおびたこの運動は、当時のわが国の社会運動史の中でもきわめてユニークな位置にあり、それゆえ最近では『学生評論』の復刻版が出版されるなど本格的な研究が進みつつあるという。従って、この点を中心にお話を伺うことは、先生御自身のパーソナル・ヒストリーとしてはむしろのこと、それをこえて、時代に対する貴重な証言の意味をもちうるのではないかと思われたからである。

以上の事情から、西田先生にお話を伺う際には、京大時代の御友人であり、また戦後の労働運

目 次

西田勲先生聞き書き

まえがき	鈴木 直次 (1)
西田勲先生に聞く	(3)
——昭和社會運動史の一断面——	
編集後記	(40)

動で重要な役割を果たされた増山太助氏とわが国社会運動史を御専門にする栗木安延所員に御参加を頂いた。お二人の参加がなければ聞き書き自体の成立も危うかったであろう。厚く御礼を申しあげたい。このほか、室井義雄、鈴木直次の両所員が加わって、聞き書きは昨年2月に箱根でおこなわれ、90分テープにして約5本に収められた。それを原稿におこし、編集したあと、西田先生御自身に目を通して頂いたが、あらためてかなり大幅な加筆をして頂くことになってしまった。このため当日とはやや印象の異なる箇所も散見されるが、時間の制約もあり、このまま印刷に付すことにした。なにぶんこのような作業に不慣れなため、さらに興味深いお話を伺えたのではないかと心残りであるし、また、編集についても不十分な点が多々残されてしまった。この点はお許し頂くほかはない。必ずしも当初は積極的ではなかった西田先生にはいろいろ御無理を申しあげることになったし、またこのように公表が遅れてしまったことについては先生をはじめ社研事務局の方々にもおわびを申しあげねばならない。この聞き書きに与えられた社研の御援助とお名前はあげないが、テープおこしや原稿の浄書等で御助力を頂いた何人かの方々に厚く感謝したい。

1985. 2. 4 鈴木 直次